

2020年東京オリンピック・パラリンピックに、 渋谷～代官山～中目黒間を

“連続する緑の文化十字路”として、

誰もが歩いて楽しめる成熟社会のオリンピック・レガシーにしよう!

東横線代官山跡地は、散策路を持つ220mの商業施設として2015年に、これに続く約600mを緑と水の遊歩道として2017年をめどに工事が進められている。「広域代官山エリア」に生まれるこのグリーン・モールを戦略コンセプトで結べば、世界の都市に“世界一の道”モデルができる。結果として成熟社会ニッポンのレガシーとなる。

広域代官山エリアとは

“代官山”といわれるエリアは、時代とともに拡大してきた。かつては代官山駅や、代官山町を指していた。その後、渋谷駅・恵比寿駅・中目黒駅を結ぶ三角形エリアが定着した。

しかし現在では、池尻大橋駅を加え、周辺拠点駅を結んだ矩形の内側が、「グレーター代官山（広域代官山）エリア」と認識されるようになっている。

東京五輪のレガシーで 囲まれる代官山

1964年の東京五輪開催は、全国の国土開発や都市計画をおし進める契機となった。五輪競技のメイン会場は国立競技場のある神宮地域と、サブ会場の・駒沢地区であった。

この2つの会場を結ぶ道路として整備されたのが、「国道246号線」（青山通り、二子玉川通り）である。ここは中世からの大山街道に沿った道である。もう1つは駒澤運動公園に向かう「駒澤通り」である。山手通りとは中目黒で立体交差し、恵比寿駅近くの渋谷橋で明治通りと名を変え、代々木の選手村や神宮競技場などと結んでいた。代官山エリア周辺の三つの幹線道路は50年前のオリンピック・レガシーであった。



自動車用ではない、人のための道

2020年にふたたびおこなわれる東京オリンピック・パラリンピックは、1964年の五輪開催時とは時代の背景が全く違う。1960年代はわが国が敗戦から立ち直り、高度経済成長へと邁進する時期だった。現在は少子化・高齢化によって、経済成長はやや弱まっているが、それはわが国の社会や経済が成長から成熟へと質的転換を遂げるパラダイム・シフトととらえることができる。

私たちの生活においても、質的成熟は様々な局面に現れている。たとえば道路。当時の道路整備は産業振興に必要な自動車を大量に効率的に運ぶための手段であった。現在では人が移動するための「空間」という要素が強い。人々が出会い、触れ合い、交差点（文化十字路）ごとに新しい「もの」や「こと」を発見し、人々が歩くことで地域文化を楽しむ。成熟社会にあっては、道空間の充実こそ求められる。渋谷から中目黒まで新しく生まれる遊歩道は、安心・安全・安らぎを提供するだけでなく、日本の歴史や文化を発信できる場であってほしい。

成熟社会のレガシー

東京オリンピック・パラリンピックを契機に246号線の渋谷駅から、並木橋、代官山、鍵ヶ崎、中目黒、駒沢通りと結び、ここを歩いて楽しめる成熟社会の道として整備する。例えばWi-Fi環境、多言語翻訳サービス、言葉の壁を超える案内サインなどの充実。また、無電柱化や緑の自然環境など景観に配慮した街並みは私たちの誇りになるだろう。健常者、障がい者、高齢者、子どもたち、そして海外からのお客様など、誰とも優しく、健全にコミュニケーションができる場となれば成熟社会の都市環境実例として、世界に提案することができる。

広域代官山今昔物語～その1

代官山は新しいものと古いものが共存している。なかでも代官山文化の生活史・技術史の嚆矢をたどると「三田用水」に行き着く。1664年（江戸前期）から320年間、玉川上水の世田谷区北沢で分水し、渋谷、目黒、三田、白金、大崎、品川と流れていた。最初は大名の飲用、後は農業用水、水車用水として活躍。いわば幕末から日本の近代化を支えた動力インフラを担ったものいえる。三田用水が残した文化的景観資源は今でもたどることができる。

1 猿楽塚・猿楽神社（ヒルサイドテラス内）

古墳時代末期（6～9世紀）の大小の円墳で背の高いほうが猿楽塚。塚の上にあるのが猿楽神社だ。天照大神、須佐能尊、猿楽大明神、瘡守稲荷などを祀っている。「去我苦」とも書き、癒しの場として人々の崇敬を集めている。都心に残る古墳を守る大きな櫓が取巻いている。



ASPI提供

2 西郷山公園（目黒区青葉台）

江戸時代の名園。明治に入り西郷従道が、兄の再起を願って約6haの土地を購入。従道自身の別邸としてフランス人、デスカースによる2階建ての西洋館がたつた。三田用水から引いた滝や池がある回遊式庭園は東京一の名園といわれた。洋館は明治村に移築、公開されている。代官山のセントラルパークという人もいる。



めぐろ観光まちづくり協会提供

3 旧朝倉家住宅（渋谷区猿楽町29-2）

大正8年建造の和風木造住宅。明治時代から手広く米穀商を営み、後に東京府議会議長を務めた、朝倉虎次郎氏の自邸。（重要文化財）母屋の一部と回遊式庭園は見学できる。入館時間：10時～18時（11～2月は16時30分まで）、最終入館は30分前まで。月曜（祝日の場合は直後の平日）、年末年始、休館。観覧料：一般100円、小中学生50円、年間観覧料500円。車での来場は不可。



渋谷区提供

広域代官山今昔物語～その2

- 東急トランセ 代官山循環線
- 東急バス (恵3系統)
- 東京メトロ日比谷線
- 郵便局
- 寺院
- 東急バス (洗71系統)
- ハチ公バスルート
- (緑ヶ岡) 交差点
- 交番
- 教会
- 東急バス (洗72系統)
- 東急東横線
- 公園
- 学校
- 図書館
- 東急バス (洗41系統)
- JR山手線・埼京線
- 坂
- 神社
- 博物館

4 金王八幡神宮 (渋谷区渋谷3-5-12)

渋谷駅に近い金王八幡神宮の歴史は古く、徳川時代には将軍家光の乳母・春日局が参拝し、社殿や門の造営にも力を尽くしたと伝わっている。江戸時代前期から中期の建築様式をとどめている貴重な建物。神社の金王桜(区指定天然記念物)は一重と八重が混在して咲く珍しい桜で、江戸時代には「郊外三銘木」の一つに数えられていた。裏手には源義家が共に創建した東福寺がある。

5 常磐松の碑 (渋谷区東4-4-9)

常磐松町は昭和3年に設置。昭和41年住居表示により「東」という地名に変更。幕末にはこの一帯、薩摩藩島津家の下屋敷が置かれ、その庭には「値千両」といわれた立派な松があったそうである。この松は源義経の母、常盤御前が植えた話があり、島津藩士がその言い伝えを記した石碑があり、この地に伝わる壮大な伝承を忍ばせる。石碑の真向かいには「白根記念渋谷区郷土博物館・文学館」がある。



国学院大学提供

6 知の拠点化した常磐松エリア

東京農学校は明治31年に常磐松御料地に開講したが空襲で焼失。戦後、青山学院が初等科を開設。皇典研究所と国学院大学は大正12年に常磐松御料地と水川裏御料地に移転。実践女子学園は中学校・高等学校などを明治35年に開校した。平成26年に実践女子大学の文学部、人間社会学部が常磐松へ移転。目黒区碑文谷のトキワ松学園は昔、常磐松女子学校として開校した。渋谷区立常磐松小学校、区立広尾小学校・中学校・高等学校。近くには青山学院大学、聖心女子大学もある。他に渋谷区立図書館、山種美術館、塙保己一資料館など、知の集積拠点となっている。

7 国学院大学博物館 (渋谷区東4-10-28)

「梅干と日本刀」で有名な樋口清之博士の「考古学陳列室」をルーツに、国学院大学所有の考古・神道・校史関連資料を統合し「伝統文化リサーチセンター資料館」として開館した。

その後、平成25年に「国学院大学博物館」と名称を変更した。常設展示室は、考古「祭祀遺跡にみるモノと心」、神道「神社祭礼に見るモノと心」、校史「国学院の学術資産に見るモノと心」の3つがある。企画展示室はタイムリーな研究成果を公開している。日本文化への理解を深め、現代社会に活かそうと地域連携にも積極的な博物館である。



国学院大学提供

8 氷川神社 (渋谷区東2-5-6)

御祭神の筆頭が須佐男尊種であることから、関東武士の守り神として関東一円に多いのが氷川神社。ここは渋谷氷川神社と呼ばれ、区内で最も古い神社である。金王相撲として知られた力自慢の相撲大会が開かれた土俵跡がある。



井上桂 撮影

9 渋谷区ふれあい植物センター (渋谷区東2-25-37)

200種類の熱帯植物が生い茂る温室「グリーンガーデン」が中心の植物園。2階3階の多肉植物コーナーやハーブガーデン、実習室、講習会も人気がある。



渋谷区提供

10 渋谷川の環境整備

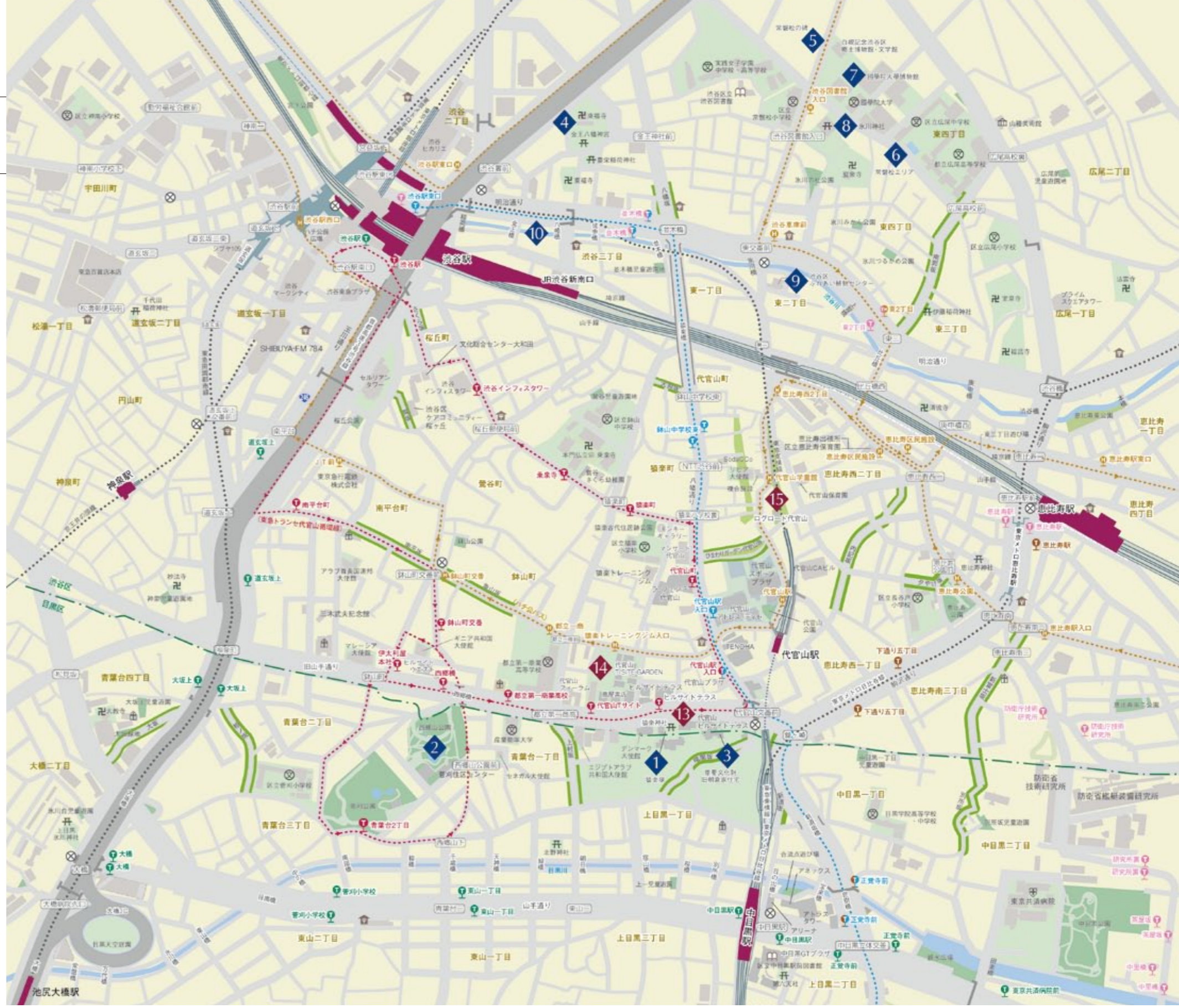
東横百貨店の地下を流れていた渋谷川の流路を変更、渋谷川と平行に走っていた旧東横線の高架撤去にあわせて、並木橋まで約600mを緑化し壁が水が流れる壁泉や広場を整備し、緑と水の遊歩道計画が進行中。



約600mにわたる緑の遊歩道と渋谷川の整備イメージ



壁泉と渋谷川沿い店舗の賑わいイメージ



ステキな“代官山物語”が今日も始まります。

11 ヒルサイドテラスの誕生

今日の代官山イメージは旧山手通りの「ヒルサイドテラス」の登場と存在抜きには語れない。1968年、建築家・楨文彦氏と朝倉不動産の出会いで最初のAB棟が誕生した。以来、200mにわたり、住居、店舗、事務所からなる街なみがゆっくり時間をかけて創られた。朝倉不動産は30年間の活動に対して「1998年メセナ大賞」を受賞。その理由に「地区のセンターの役割を超えた、創造的な文化のインキュベーターとして多年にわたる貢献と実績が深い共感を呼んだ」とある。単純に時間をかけただけでないことを雄弁に物語っている。



12 DAIKANYAMA T-SITE 代官山 蔦屋書店の定着

カルチャ・コンビニエンス・クラブ (CCC) による「代官山 蔦屋書店」は旧山手通り沿い、ヒルサイドテラスのGH棟に隣接して2011年に誕生した。景観を大切に地域に溶け込むように低層の「代官山 蔦屋書店」が3棟並んでいる。ここでは「書店」といっても一般的な書店ではない。雑誌をはじめ顧客の期待するライフスタイルを豊かにする、多数の文化的情報とサービスが集積している。いわば施設全体が密度の高い「文化の森」なのである。毎日新しい発見がある空間、これも代官山だけでなく世界に例を見ない魅力だ。



13 LOG ROAD DAIKANYAMA ログロード代官山の登場

東急電鉄は東横線の地下化で生まれた線路跡地に「LOG ROAD DAIKANYAMA (ログロード代官山)」を4月に開業する。代官山駅のすぐ近くから全長220mの細長い敷地には、四季折々の花と緑を楽しめる散策路が南北に通る、その途中に現れるコテージライクな5棟の商業店舗ではクラフトビールや日本初出店のベーカリー等を楽しむことができる。線路跡地とほぼ並行にある「代官山通り」(旧・キャッスルストリート)とはエレベーター1台の他、散策路へ3本、店舗へ2本、計5本の階段でつながっており、どこからでも自由に行ける。



時代をリードする新業態施設群だけでなく、代官山には規模の大小ではなく、個性豊かな魅力店舗が無数に集まっている。最近では金の卵を孵化させるSodaCCoやTENOHYAのような施設も生まれている。どうぞ『代官山ホームページ』を手がかりに代官山のステキを見つけてください。ネット店舗にない代官山時間、代官山体験を経験しリアルな“代官山物語”をお楽しみください。



代官山ホームページ Daikanyama Homepage

1999年に開設。代官山エリアのコミュニティポータルサイト。2014年4月からNPO法人代官山ステキ総研が運営している。
<http://daikanyama.ne.jp>

NPO法人 代官山ステキ総合研究所

1992年、東京都から認証されたNPO法人。代官山の地域シンクタンクを標榜している。その活動目的はさまざまな視点から地域ブランド(地域価値)を調査、研究し、地域の活性化・情報化に資するコミュニティ・デザインの開発・提言等を行う。
<http://daikanyama.ne.jp/dsi/>
〒150-0033
渋谷区猿楽町30-8 ツインビル代官山B-601

発行：NPO法人代官山ステキ総合研究所 理事会
執筆：岩橋謹次 平松由美
協力：朝倉不動産(株) 代官山T-SITE
デザイン：スギヤマデザイン